

社会的排除と権利擁護支援

にじいろでGO!
奈良崎真弓

今日のテーマとして大きく3つについて話したいと思います

- 1 当事者から見た権利擁護について
- 2 インクルーシブと地域共生社会を目指して
- 3 まとめ



1 当事者から見た権利擁護について

私から3つ思うことを話します

①世の中の思う当事者は障がい者本人とされていますが特に知的障がい者の場合は当事者とは言いません

本人と良く言われている

②自分の意見をちゃんと言うことができる場が大切なこと

③権利とは何か?障がいの理由で世の中では大切だと思えないこと



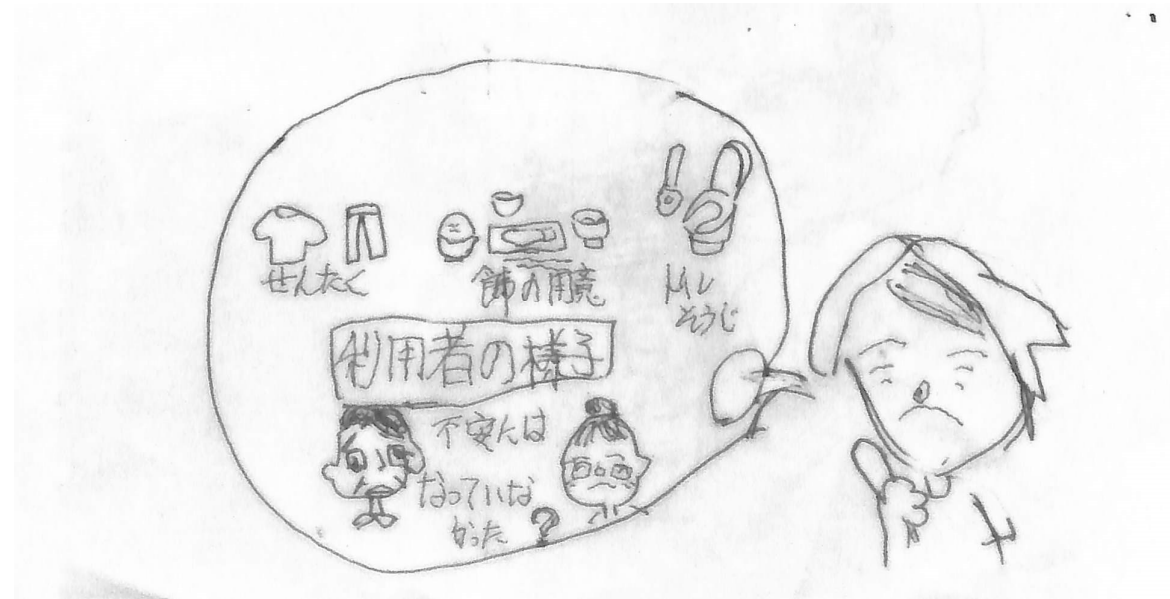
障がいでも生まれて自分たちには権利を守られない人が多いです

- 障がい者も1人の人間として大切に守ってほしいです
- 世の中では意思決定だと言うが意思決定は権利と似ているところがある
- 知的障がい者の場合は特に自分で暮らしたいところや働く場所やお金のことの話聞くことが少ない

理由

知的障がい者は自分が考える力がないと思っている人が多いです

※特に親が本人たちのことを知っていると思っている人が多いです



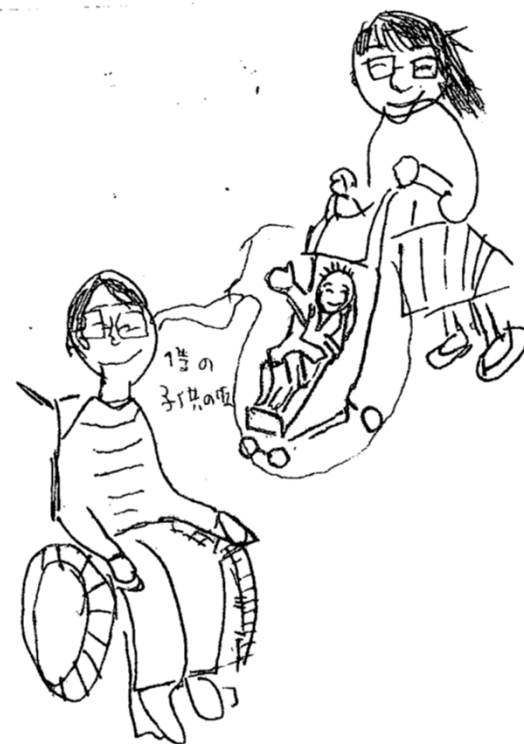
そのことを私がやっているにじいろでGO !の 仲間に話をしています

- 知的障がい者の人たちは夢や自分たちの暮らしのついてを学習会でやっています
- 内容は暮らしとこれからの暮らしについてやりました
- その時に自分たちがこれからの暮らしでどんなサービスがあれば自分たちの暮らしが良くなるのかを障がい者の専門家の人たちに聞きたい人たちが多かった
- 仲間にはグループホームで暮らしている仲間たちから良く話し合いをしていると多いです



障がいの理由で世の中では大切だと思えないこと

- 障がい者だから何でもやってあげることが大切だと思っている人が多い
- 障がい者でもできることがあるので聞いてほしい
- 同じ障がい者でも違うのでその人に合った対応をして1人の人間と見てほしい



まとめ1

- 自分たちの1人暮らしのことを職員さんに話をしたいけどそのためにお金を貯めなさいと言っているのに小遣いを自分で決めさせないで職員が決められている仲間が多いです
- にじいろでG 0 !の仲間は自分たちが1人暮らしをするためにはお金がいくらかかるのか分からない仲間が多いです。
- どんな福祉サービスがあるのか分からない仲間が多いです

まとめ2

- 私から毎回の学習をやる時に思うことがあります
- 世の中の障がいのない人たちは高校を卒業してから自分が何になりたいのかを決めることができますが、私たちの知的障がい者仲間たちは18歳の時に親や福祉の人たちが決める事が多いです
- たまに親や福祉の人たちが聞いてくれることもありました

2 インクルーシブと地域共生社会を目指して

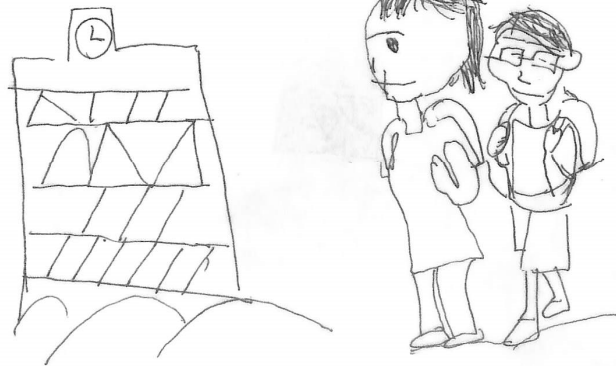
世の中の人たちは共に生きることがインクルーシブとと思っている人が多い

私のイメージは

- 小学校・中学校・高校は自分でで行けると良いと思いますが無理にインクルーシブと言われて行ってもストレスが多いと思います
- 皆さんはやバスなどで「ともに生きる社会」のポスターを見ることがあると思いますが、大人になって毎日生活を送ってゆく中で理解ができたのは社会ではちゃんと障がいがある人とない人と一緒にできると思います

ポイント

- 障がい者が嫌いな人もいる社会があるの現実です
- 無理にともに生きる社会を作ってもいじめや差別や虐待はなくならないと思います
- つらい気持ちになります
- 障がい者を理解している人も大切にしてほしいです



3 まとめ

私がやっている本人会にじいろでG 0 !の仲間たちからメッセージが2つあります

3 まとめ

- ①障がいがあっても自分たちにいろいろな体験や経験をさせてもらえば自分たちの障がい者でもいろいろなことができることもあります。できないときには皆さんがお手伝いしてもらえば自分の勉強や仕事ができます。その流れで自分たちの暮らしの場を選ぶことができます
- ②障がいがあっても自分たち一人一人がハッピーになれる権利があります

